学　年	教科等	単元名	日　時
第３学年	国語科	想ぞうしたことをつたえ合おう（教材：モチモチの木）	令和５年 11 月１日（火）６校時

研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成
研究内容１の手立て	**【子どもが自覚的に問いを解決する学びのプロセスの在り方】** 本単元では、「人物はどのような性格なのだろうか。」という単元の問いを解決できるようにする。そのために、「生み出す」段階で、性格を想像したい人物を選択し、人物の性格紹介カードを作るという単元のゴールを提示する。そのうえで、場面毎に想像した豆太の性格を出し合い、互いの想像した性格の違いを共有することで、本単元の学習に対する問題意識を高め、学習計画における各時間の問いを設定することができるようにする。 本時では、性格を想像したい人物を基に、自分の問いを設定する時間を設ける。そのうえで、人物の行動や会話にかかわる叙述を基に、音読や動作化等の方法を使って人物の性格を想像し、想像したことを人物の性格紹介カードにまとめる時間を設けることで、問いに対する考えを確かにすることができるようにする。
研究内容２の手立て	**【子どもが自ら学習を調整するための学習サイクルの在り方】** 「生かす」段階において、身に付けた言葉の力を他の文学的な文章を読む際に生かしていることを実感したり、学習計画が自分に合っていたかをふりかえり、１月単元「ゆうすげ村の小さな旅館」における学習計画の大体を設定したりする時間を設けることで、学習計画を改善し、今後の学習に生かすことができるようにする。 本時では、既習の文学的な文章から、性格を想像したい人物を選択し、人物の性格紹介カードにまとめようとしている姿を価値付けることで、言葉の力「人物の性格を想像する」を生かしていることを実感できるようにする。

○　子どもの姿からの報告

研究内容１：子どもが自覚的に問いを解決する学びのプロセスの在り方

＜問い創りのステップ＞

ステップ１

【学習計画表の提示】
T：　今日は、いよいよ何をつくる時間ですか。

（学習計画表を見て）
想像したい人物の性格紹介カードをつくる時間です。

ステップ２

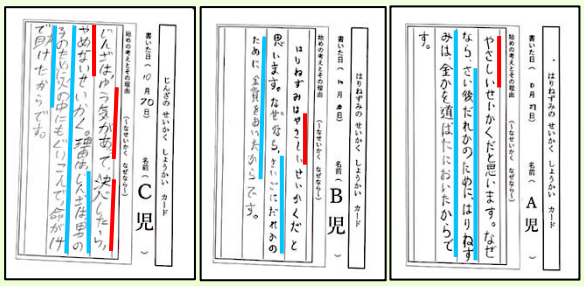
【前時の問いの想起】
T：　前時は、「豆太は、どのような性格なのだろうか。」という問いをもって学習しました。
【前時の問いとの関連付け】
T：　では、今日は、どのような問いをもつとよいだろう。

前の時間の問いと似ていて、「想像したい人物はどのような性格なのだろうか。」とするとよいと思います。

ステップ３

【自分の問い創り】
T：　みなさんは、どの人物の性格を想像したいと思っていますか。

私は、はりねずみの性格を想像したいので、「はりねずみは、どのような性格なのだろうか。」として、みんなも、想像したい人物に合わせて自分の問いを創ればよいと思います。



上の３つのカードは、第２時において、性格を想像したい人物を選んで書いておいた、人物の性格紹介カードである。考えの根拠（青線）が、**１つの場面のみを基にしていたこと**が分かる。

①　問い

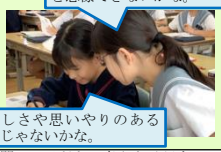
②　考え（考えの想起）

音読や動作化、対話等

じんざが、男の子を助けるところを音読しよう。

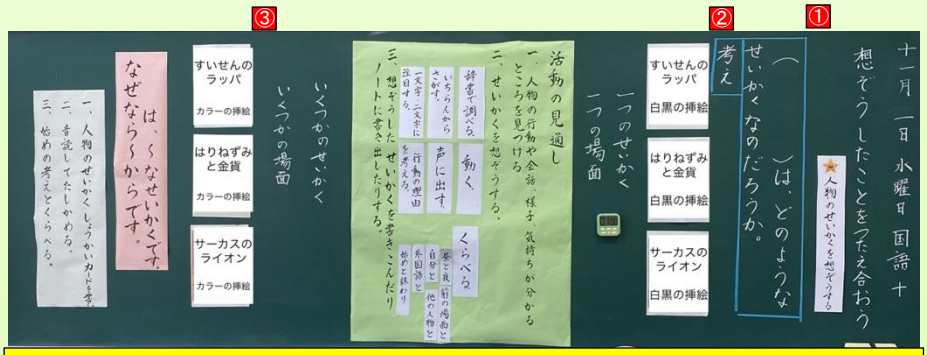
音読してみると、じんざが勇気がある性格だと想像できるね。

「誰かのために金貨を置いた」というところから性格を想像できないかな。



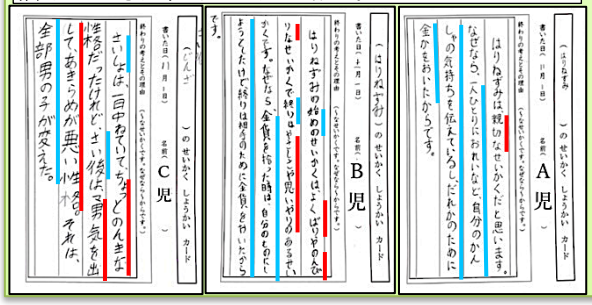
優しさや思いやりのある性格じゃないかな。

活動中は、性格を想像するために選んだ方法を問い、子どもの考えを承認することを心がけた。さらに音読や動作化、対話等を促すために、「どの叙述を音読するのか。」、「その叙述から分かる人物の行動を実際に行ってみよう。」、「その言葉で本当によいのか。」など、**意図的な教師の言葉掛けの在り方を追究する必要性**が生まれた。



③　確かな考え

下の３つのカードは、第10時である本時で書いた、人物の性格紹介カードである。**性格を表す語句（赤線）の量が増していること**が分かる。また、考えの根拠（青線）が、**複数の場面や変化のきっかけを基に**しており、**場面の移り変わりと結び付けて想像することができるようになっていること**が分かる。



研究内容２：子どもが自ら学習を調整するための学習サイクルの在り方

④　考えの変容とふりかえり（学びの実感・言葉の力の自覚）

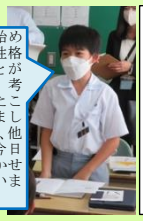
【考えの変容】
T：　第２時で書いたカードと、今日書いたカードを比べるとどのような違いがありますか。

始めは、最後の場面でしか性格を想像していなかったけど、今日は、始めの場面と終わりの場面を比べて想像できました。だから、性格を表す言葉も増えました（**学びの実感**）。

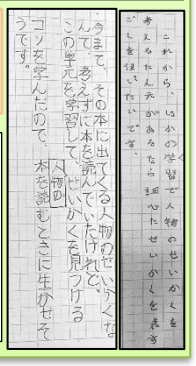
最初は、言葉の力がなくて、学習もしていなかったから１文字も書けていなかったけど、今は、学習をして、言葉の力が身に付いたから、カードの最後まで文章を書けるようになっていました（**言葉の力の自覚**）。

【本時の学びを生かす活動の提示】
T：　実は、２年生までに学習した物語の人物の性格紹介カードも用意しています。
【ふりかえり】
T：　今日の学習を思い出して、分かったことやできたこと、これから生かせそうだと思うことは何ですか。

今日は、始めと終わりの性格を比べることができました。考えが変わったことが分かりました。これから、他の物語でも今日の学習を生かせそうだと思いました。



考えと確かな考えとの変容に気付くことが、**学びの実感や言葉の力の自覚につながること**が子どもの発言から分かる。
さらに、**本時の学びを生かすことができる活動を提示すること**で、**身に付けた言葉の力をこれから出合う文学的な文章を読む際に生かそうとする姿**が、子どもの発言やノートの言葉に見られた。



○　考察

研究内容１　本時と似た問いを前時の段階で設定しておき、そのうえで問い創りのステップ１～３の手立てを講じることで、前時の問いと関連付けながら本時の問いを創り出すことができた。さらに、問いの一部を空欄にして提示し、個別に設定できるようにすることで、自分の問いを創り出し、問いを自分事として捉える（問いを自覚する）ことができたのではないかと考える。問いを解決する場面では、音読や対話をする姿は多く見られたものの、性格を表す語句を吟味しながら音読や動作化、対話をするまでには至っていなかった。そのため、今後は意図的な教師の言葉掛けを追究し、性格を表す語句が本当にその言葉でよいのかと話し合ったり、他の性格を表す語句を使うことはできないかと話し合ったりするなど、言葉にこだわって問いを解決することができるようにしたい。

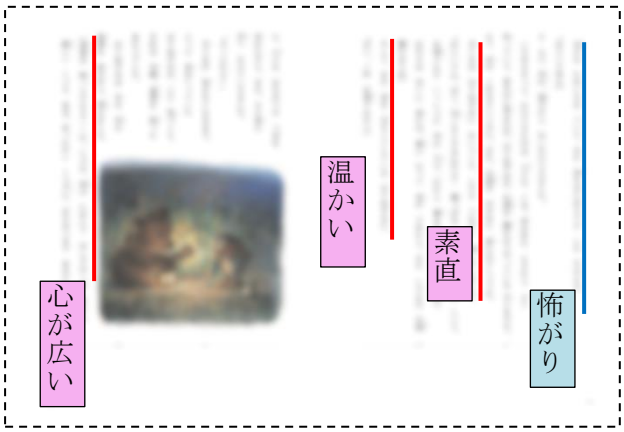
研究内容２　考えと確かな考えとを比較し、変容に気付いた発言を全体に共有することで、学びを実感し、言葉の力を自覚する姿が見られた。さらに、本時の学びを生かす活動を提示することで、身に付けた言葉の力を生かして、既習の文学的な文章を見つめ直したり、これから出合う文学的な文章の学習に臨もうとしたりする姿が見られた。このことから、身に付けた言葉の力を生かして、既習単元や既習教材を見つめ直す機会を設定することで、子どもが自ら学習を調整するための学習サイクルを描く手立てと成り得るのではないか。今後は、既習単元や既習教材と言葉の力との関連を検討したうえで、研究内容２における手立てを追究していきたい。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

想像したい人物の性格に対する、感想や考えを伝え合おうとする。

○　本時の指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
1　本時の学習について話し合う。 ○　学習計画における本時の位置付け ○　学習問題（自分の問い【例：はりねずみと金貨】） はりねずみは、どのような性格なのだろうか。	○　「生み出す」段階において選択した、性格を想像したい人物を基に、自分の問いを確認するよう促すことで、選択した人物を想起し、本時の学習への問題意識を高めることができるようにする。
2　学習の見通しをもつ。 ○　人物の性格を想像する効果的な方法 ・　人物の行動や会話にかかわる叙述を見付ける。 ・　音読や動作化、仲間との対話をする。 ・　表現の似た人物の行動や会話にかかわる叙述を比べる。 ・　自分と比べる。 ・　文章の始まりと終わりを比べる。　等 ○　性格を表す語句 ○　本時のゴールイメージ	○　「挑む」段階において見付けた、人物の性格を想像する効果的な方法を確認する時間を設けることで、人物の性格を想像する方法を選択し、身に付けた言葉の力を生かす意識をもてるようにする。 ○　単元や日常生活のなかで着目して調べた、性格を表す語句とその意味の一覧を使って考えることを伝えておくことで、性格を表す語句を話や文章のなかで使う際に吟味することができるようにする。
3　人物の行動や会話にかかわる叙述を基に、人物の性格を想像する。 ○　人物の行動や会話にかかわる叙述  	○　想像したい人物が登場する文学的な文章を配付し、想像した性格を書き込むよう促すことで、人物の行動や会話にかかわる叙述を基に、問いに対する考えを洗い出すことができるようにする。 ○　人物の性格を想像することに困り感を抱く子どもには、段階的に以下の手立てを講じることで、人物の性格を想像する方法を選択し、各自で選んだ人物の性格を想像することができるようにする。 ①　どうすればよいと思うかを問い、それに対する発言を認め、やってみるよう促す。 ②　これまでに学んだ、人物の性格を想像する効果的な方法を提示し、選択した方法を認め、やってみるよう促す。 ③　人物の行動や会話にかかわる、性格を想像しやすい叙述を伝える。
4　想像したことを人物の性格紹介カードにまとめ、問いに対する考えを確かにする（★）。 ○　想像した人物の性格（確かな考え） はりねずみは、素直で心が広い性格です。なぜなら、動物たちがしてくれたことに対して「ありがとう。」と言ったり、使わなくなった金貨を誰かの役に立つかもしれないと、道端に置いたりしたからです。 ○　考えの変容	○　人物の性格を想像したことを基に、文章全体から想像した人物の性格を理由とともに学習プリントに書く時間を設けることで、問いに対する考えを確かにすることができるようにする。 ○　「生み出す」段階においてもった、問いに対する初発の考えと比べる時間を設け、変容したことを伝えることで、考えの変容を実感することができるようにする。
5　本単元の学習をふりかえる（★）。 ○　ふりかえり ・「何度も出てくるはりねずみの『ありがとう。』という言葉から、性格を想像することができたよ。」 ・「想像したことを仲間と伝え合いたいな。」 ・「サラダで元気のりっちゃんの性格も想像してみたいな。」	○　人物の性格を想像する方法を使って人物の性格紹介カードにまとめようとしていた姿を取り上げ、価値付けることで、身に付けた言葉の力を生かしていることを実感することができるようにする。 ○　他の文学的な文章に登場する人物の性格を想像したいと言う子どもの発言を共有することで、身に付けた言葉の力を他の文学的な文章を読む際に生かそうとする意識を高めることができるようにする。

○　本時の評価規準

進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、身に付けた言葉の力を生かして、想像したことを人物の性格紹介カードにまとめようとしている。（態度）【行動観察・記述分析】